重心

5領域とのつながりを明確化した支援プログラム　　放課後等デイサービスひまわり袋井駅前校

領域	(ア)健康・生活	
ねらい	(a)健康状態の維持・改善 (b)生活のリズムや生活習慣の形成 (c)基本的生活スキルの獲得	ひまわりで行っている支援の内容を記載してください。 また、今後やってみたいこと、やるべきだと思うことを記載してください。(文章の前に〇をつけてください)
(a)健康状態の把握	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。	・利用開始時には手指消毒や検温、spo2測定等の健康チェックを行います。 ・排泄や食事、おやつの摂取量等のチェックを必要に応じて行います。(回数・個人) ・学校からの申し送り、保護者からの情報の共有、声掛けによる健康状態の観察を行います。 ・保護者に健康状態や受診時の様子を報告してもらったり、ひまわりでの様子を報告したりしています。
(b)健康の増進	健康的な生活のリズムを身に付けるよう支援する。楽しんで食事ができるよう支援する。また、病気の予防や安全への配慮を行う。	(活動) ・利用児が安心して過ごすことができる環境や活動を意識しています。 ・活動に身体を動かす遊びを取り入れています。 ・活動、リラックスタイムに流す音楽を決めており、流れる音楽で何をする時間か分かるよう工夫しています。 ・室内でも思い思いに動けるようスペースを設けられるよう工夫しています。 ・散歩やひなたぼっこなど、外気に触れる機会を設けています。 (食事) ・食への興味と食べられるものの幅を広げられるよう支援しています。(食形の調整・加工) ・楽しく安全に食事ができるように、準備から介助・食後安静まで配慮しています。 ・安定して食事ができるように、クッションチェアや、椅子、テーブルの高さなどを身体に合わせています。 ・食べる力の維持・向上を目的として、食事環境を整えています。 ・保護者のニーズに合わせて食後は口腔ケア(歯みがき)を行います。 (体調管理) ・手足が冷えている時には足浴手浴、ホットタオル等状況に応じて行っています。 ・生活リズムを乱さないよう、保護者と利用児の体調に合わせて、午睡を取り入れています。 ・体調の変化に気づくことができるよう、健康観察を行います。 ・利用児の体調によっては、保護者と相談したうえで、利用時間を調整(早迎え)いただいております。
(c)リハビリテーションの実施	日常生活や社会生活が営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。	(集団) ・活動の中で、買い物などのを通じて、社会体験活動のに参加する機会を取り入れています。 ・近隣の散策・公共施設や公園・地域イベント等へのお出掛けを行い地域と交流する機会を取り入れています。 (個別) ・必要に応じて、個別に歩行訓練、緊張緩和するためのアプローチ、関節の屈伸等の運動、装具の適時脱着を行っています。

重心

		・利用児それぞれの可動域に合わせた活動設定を計画し実施しています。 ・個に合わせた支援ライン（精神発達年齢の見極め・得手不得手の見極め）を職員間で意見交換して取り組むようにしています。 ・活動の中で、それぞれに合わせた身体の動かし方や、手作りの道具を使って、楽しみ、達成感のある活動ができるようにしています。
(d)基本的生活スキルの獲得	身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄など生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。	・利用時のスケジュールに沿って支援や活動を行い、支援や活動に合わせた言葉掛けを行っています。 ・日常支援動作の中で、それぞれの利用児ができることについては、利用児自身が行うことができるように支援しています。
(e)構造化など生活環境を整える	生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	・当日のスケジュールを常に声掛けするようにしています。 ・利用児によっては、タイムスケジュールを個別に提示しています。 ・パーテーションを使用し、気持ちを落ち着かせることができるように環境を整えています。 ・切り替えや場面の理解・集団の中での自分を理解する声掛け・環境設定を行っています。 ・音楽を流し、リラックスできるような環境（時間）を整えています。

領域	(イ)運動・感覚	
ねらい	(a)姿勢と運動・動作の向上 (b)姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c)保有する感覚の総合的な活用	
(a)姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。	・活動の中で、引っ張る動作を行ったり、ボールを転がしたりするなどの手を動かす活動を取り入れています。 ・適宜座位保持、カーシート、バギーの調整、装具等を使用しています。 ・呼吸・褥瘡予防・排痰の観点から臥位の利用児にはクッション等で安楽な姿勢を整えるようにしています。 ・ふれあい体操を通して、自分の手や足がどこまであるのか理解を促したり、身体をほぐしたりしています。 ・体ほぐし、うつ伏せ、体位交換を実施しています。 ・必要に応じて、PT に助言を仰いでいます。
(b)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。	・座位保持椅子や、本人専用の装具、バギーなどを使い動作がスムーズにできるように促しています。 ・遊びの中で、補助具を使用しています。（ボール飛ばし台等） ・可動域や視野などに合わせた自助具や活動物品を手作りし、本人の様子を見ながら微調整しています。
(c)身体の移動能力の向上	自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援をする。	・職員が利用児の身体を支えながら、歩行が出来るように支援しています。 ・移動時はバギーや車いすを使用して支援しています。 ・利用児の状態に合わせて、立位保持のため補装具の活用、自力歩行・介助歩行・口頭指示による自力移動の支援を行っています。また、移動時の誘導（手で方向を指示する）を行っています。

重心

		・筋力低下予防のため、自力移動が可能な利用児は、楽しみながら体調に合わせた自力移動が行えるよう、促しています。
(d)保有する感覚の活用	保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びなどを通して支援する。	・優位の感覚と、使いにくい感覚は何か見極め、それらが伸びるように支援しています。(嫌にならないよう、使わないで済んでいるものであれば使わないとできないような活動やコミュニケーション設定など) ・支援のなかで、自ら選択できるような声掛けを行っています。 ・ブロック積みや風船乗せ等バランス感覚や考える力を養えるような活動を行っています。 (視覚、聴覚) ・活動や支援内容に合わせた音楽を流しています。 ・四季を感じられるような飾りつけをしたり、散歩を通して気温や風を感じることができるようにしています。 ・スヌーズレン、音楽活動での楽器の使用、歌での刺激が得られるような活動を取り入れています。 ・活動に iPad を活用したものを取り入れています。 (触覚) ・感覚遊びとして様々な感触のものに触れる活動を取り入れています。 ・日々の活動に感覚遊びや制作活動を取り入れています。 ・季節を感じられる活動を行っています。
(e)感覚の補助及び代行手段の活用	保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器など各種の補助機器を活用できるよう支援する。	・保護者の要望や必要に応じて、補聴器や眼鏡・補装具などを使用しています。 ・視野の狭い児などは、見える位置に対象物を用意したり、認識しやすい色・形・大きさのものを準備したり、対象物を認識しやすいような声掛けをしています。
(f)感覚過敏への対応	感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、特に感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性に配慮する。	・感触遊びや体ほぐし、体操など体に触れる機会を設け、過敏が少しでも軽減するように支援しています。 ・音や光・物人の動きなどに過敏である利用児に対しては、職員間で情報共有し、声掛けをしたり、なるべくそのような環境を作らないようにしたりして配慮しています。 ・粗大運動(バランスボール・バランスボードなど)を取り入れ、自身の体のバランスや体幹を認識できるよう支援しています。 ・散歩など外に出る機会を作り、五感を刺激する支援を行っています。

領域	(ウ)認知・行動	
ねらい	(a)認知や行動の発達 (b)空間・時間、数などの概念形成の習得 (c)対象や外部環境の認知を適切な行動に改善	
(a)感覚や認知の活用	視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。	・iPad を活用しています。 ・遊びの中で、様々なもの(ボール、風船、花紙等)に触れ、物の認識ができるように支援しています。 ・スヌーズレンを行い、音楽、光、静かな雰囲気を感じ、リラックスできるようにしています。 ・日々の活動を通して刺激を感じることで、発達を促しています。

重心

		・個別の感覚を知り、知育玩具や手作りの療育おもちゃを取り入れています。
(b)知覚から行動への認知過程の発達	環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。	・活動に応じた音楽を流したり、室内の飾り付けを行うことで、利用児が変化に気付けるようにしています。(誕生日会、スヌーズレン) ・何気ない動作ややり取りの中でも、本人の感情の揺れ動きや興味の動きなどを観察し、言語化することで支援を行っています。 ・ルールや役割を決めるなどの計画を立てるところから行動ができるよう支援しています。
(c)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。	・リラックスの時間に落ち着けられるような音楽を流しています。 ・リラックスタイムでは、毎日決まった音楽を流すことで利用児たちの時間の形成を図っています。 ・活動の始まりと終わりを音で知らせるよう工夫しています。 ・活動をするときに終わりを伝え、時間の認識をしてもらうよう支援しています。 ・室内を暗くする・音楽をかえることで、活動の切り替えを知らせるよう工夫しています。 ・色・形・大きさやそれらの違いを認識するような玩具を活動に取り入れています。
(d)数などの習得	数字・数詞対応課題、計数課題、数唱課題などの数概念の習得のための支援を行う。	・遊びの中で、順番を決めたり、順位を発表したりすることで数字に触れてもらうようにしています。 ・時計の文字盤を見ながら時間を確認したり、利用児数の確認を行っています。 ・活動でカードゲームを取り入れており、数字を認識してもらっています。(トランプの数字、枚数を数える等) ・見通しを付ける練習として、活動や普段の取り組みの中からカウント遊び・カウント注目などで数字などに対しての概念を身につける練習になるよう、積極的に取り入れています。
(e)行動障害への対応	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。	・自傷・他害行為(他児へ蹴る、叩く等)やその予兆が見られた場合は、言葉やジェスチャー等で伝えるとともに阻止したうえで、利用児の安全が確保できるよう支援しています。 ・見通しのつく声掛けをしています。 ・カンファレンス時に支援方法を共有し、統一した支援を行っています。 ・パーテーションを活用し、個人の空間作りをして適切に支援を行っています。 ・利用児の気持ちを汲み取り、利用児の意向にあった支援を行っています。

領域	(エ)言語・コミュニケーション
ねらい	(a)言語の形成・活用及び受容・表出 (b)コミュニケーションの基礎的能力の向上 (c)コミュニケーション手段の選択と活用

重心

(a) 言語の形成と活用	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。	・利用児の訴えを職員が汲み取り代弁することで、気持ちが伝わる経験が出来るように支援している。 ・声掛けの工夫と誘導で自発的な発語を促しています。 ・利用児の行動や発声をじっくり待つ支援を行っています。 ・会話ができる利用児には、学校等の出来事を尋ね、話をしてもらうようにしています。 ・常に会話に繋がるよう声掛けをしています。 ・その利用児ができる「発信（言語以外の表出も含め）」を受け止めて、その場に応じた発信ができた時にそれが正解なのだと結びつくように反応を返して、その子の中に意味のある「ことば」として獲得出来るように支援しています。 ・声を出すこと・感情を表出することが「楽しいこと」「うれしいこと」「役に立つこと」であることとわかってもらい、自己表現を利用児発信で自由にのびのびと行うことができるよう支援しています。 ・読み聞かせを行っています。
(b) 受容言語と表出言語の支援	話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。	・利用児の行動から思いを代弁し、自分や相手の気持ちが理解できるように支援しています。 ・たくさん話しかけ、利用児の反応から思いを汲み取るようにしています。 ・他施設や保護者から利用児の様子を聞き、表現の仕方を学ぶことで支援につなげています。 ・文字を書く練習をしている利用児には、積極的にその機会を取り入れています。 ・利用児が思いを伝えやすい環境づくりに取り組んでいます。（リラックスできる、コミュニケーションの土台を整える、利用児と視線の高さを合わせる、波長が合う話をするなど）
(c) 人と相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	表情や身振りなどの非言語的コミュニュケーション手段などを用いて意思の伝達ができるよう支援する。	・選択肢を設け、視線や手の動きから利用児の思いを汲み取るようにしています。 ・利用児の表情や視線を見て会話をするようにしています。また、変化に気付くことができるように意識して支援しています。 ・声のトーンで気持ちを汲み取り、支援をしています。 ・ジェスチャーなどを使いながら、会話をスムーズにわかりやすくしています。 ・利用児が言いたいことや感じたことなどを職員が汲み取り、言語化していくことで、気持ちを表出する楽しみと、伝わった経験を味わえるようにしています。
(d) 読み書き能力の獲得のための支援	聴覚に障害のある子どもや発達障害の子どもなどの障害特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。	・その利用児の「わかる」「わかりにくい」「わからない」の因果関係を観察分析し、「わかりにくい」に対しての取り組みについては職員間で検討し、支援に活かせるようにしています。 ・活動の中で、競い合う時に、獲得した物の数など、大きな声で一緒に読み上げ、順位や数など分かりやすく伝え、数を意識するようにしています。
(e) コミュニケーション機器の活用	各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、意思伝達が円滑にできるよう支援する。	・少ない選択肢を提示し、本人の意思でどちらか選択してもらうようにしています。 ・利用児に馴染みのある実物を提示したり、時間については時計のイラストの活用や針の位置をジェスチャーで伝えるなどしています。

重心

(f)文字言語、手話、動作によるサインの活用	手話を含む言語、文字の表示、点字、音声、触覚、平易な表現などによる多様なコミュニケーション手段を活用できるよう支援する。	・マカトンサインや手話、ジェスチャーを用いて、コミュニケーションを取るようにしています。 ・2 択にして視線で選んでもらうようにしています。 ・ジェスチャーや「yes/no」の反応などを基盤にしてそれぞれの利用児とのやり取りに活用しています。

領域	(オ)人間関係・社会性	
ねらい	(a)他者とのかかわり(人間関係)の形成 (b)自己の理解と行動の調整 (c)仲間づくりと集団への参加	
(a)アタッチメント(愛着行動)の形成	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。	・利用児に対して、様々な職員が関わるようにしています。 ・利用児が周囲の利用児と関われるように配置を工夫しています。 ・ふれあい遊びなどを取り入れています。 ・気持ちが不安定な時は、利用児が信頼できる職員が関わるようにしています。 ・見学・契約時に利用児にも来ていただき職員と関わる機会を設け、活動に参加したり摂食の様子を見せてもらうことで、両者が不安なく利用初回を迎えられるようにしています。 ・不安が強い児には、初めから大多数の職員で関わることは避け、少人数(担当職員)が限定して関わるように配慮しています。慣れてきたらキーパーソン(担当職員)との距離も少しずつ離すようにしています。 ・不安が強い時や体調が悪い時などはなるべくキーパーソン(担当職員)が対応するようにしています。
(b)模倣行動の支援	小さな動き、大きな動き、口の動きなどを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。	・挨拶や拍手の際に、利用児と一緒に手を振ったり、叩いたりしています。 ・利用児の小さな動きも敏感に感じ取ることができるよう、支援しています。 ・適宜「こう言うといいよ」「こういう反応するとわかりやすいよ」「今の対応とても良かったよ」など、その場その場でより伝わる方法を利用児とやり取りしながら伝えるようにしています。 ・可働できる範囲での動きを利用児同士で行うよう促しています。
(c)一人遊びから共同遊びへの支援	周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から、役割分担を作ったり、ルールを持って遊ぶ協働遊びを通して、社会性の発達を支援する。	・活動の中の流れとして、自然に他児と関わりを持てるようにしています。 ・自分や他の利用児の名前を覚えて認識していくことで、自分以外に関心を持ったり、関わりを持つことへのきっかけとなるよう支援しています。 ・ごっこ遊びを行い、参加して一緒に遊びたくなるような声掛けや雰囲気を職員でつくるようにしています。 ・集団遊びにおいて、小集団を作ったり「〇〇さんに渡して」ときっかけをつくったり、グループごとの対抗戦にしたり、他の利用児と関わる活動を取り入れています。 ・利用児自ら他の利用児に関心を持った時にはそれを取り上げて、成功体験に結びつくように支援しています。
(d)自己の理解とコントロールのための支援	自分のできること、できないことなど自分の行動の特徴を理解し、自己肯定感を強める支援を行う。	・活動や遊びの中で、利用児のできたことに対して職員全員で褒めたり、声をかけたりしています。 ・無理強いすることなく、ゆっくり見守り自ら行動できるように配慮しています。 ・苦手なことを嫌いにならないように配慮しています。 ・得意なことを見つけて楽しめる活動を企画しています。

重心

		・集団の中で「すごい！」と注目される経験ができるようにしています。 ・集団の中の自分を意識し「待つこと」「自分がいつも１番ではないこと」なども合わせて理解できるように支援しています。 ・自分だけでは出来ないことでも補助などしてもらい達成感を味わい、自己肯定感を得られるようにしています。
(e)集団への参加への支援	集団に参加するための手順やルールを理解したり、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	・集団の中で過ごすことが苦手な利用児については「一緒に過ごせること」を目標にして、少しずつ参加できるように支援しています。 ・ルールや手順については、なるべく単純化して説明を短くし、手順や見本を視覚化で提示しています。 ・集団活動、集団遊びでは、始めに手順やルールを説明し、練習をして、理解ができてから集団活動に参加できるようにしています。